

ねじりはちまき

2月 如月<sup>きさらぎ</sup> 寒い冬が明け春の日差しを感じる頃になりました。

2月2日節分、4日立春、11日建国記念日、23日天皇誕生日です。

節分で追い出す鬼とは、もともと疫病災害などの事を指しました。人の目には見えない隠れた恐ろしいものということで『<sup>おに</sup>隠』という漢字が当てられています。日本では陰陽五行説の思想から鬼は丑寅(北東)の方角(鬼門)にいとされ、牛の角と虎の牙をもつ、人を食べてしまう恐ろしい怪物と考えられています。鬼は鰯のにおいが大の苦手といういわれから、鰯は鬼を払うことが出来るとして節分の夜に良く食べられます。大晦日の年取り魚にも共通する鰯はこの時期、脂がのっておいしいことも、よく食されている大きな理由です。

幸田常一

\*\*\*\*\*

<会社近況>

これから少しずつ寒さが和らいで、芽吹く季節がやってきますね。作業しやすい天候が続くととてもありがたいです。ただいま、二本松市で新築工事をお世話になっております。本宮市では修繕工事などをお世話になっております。

<住まいのお手入れ>

- ・ お部屋の結露によるカビなどの掃除
- ・ 冷え込みの厳しい地域では、水道管等の凍結防止策
- ・ 雪や寒さで傷んだところの点検、修理

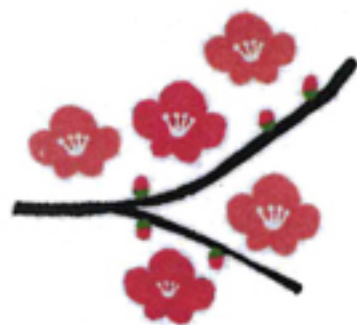
雪解けの進む暖かい日もだんだん増え、春になる準備の季節です。最近、暖冬傾向にありますので、お家のメンテナンスも例年より前倒しでできることがありそうです。ぜひ一度、チェックしてみたいはいかがでしょうか。



\*\*\*\*\*

<2月の花> 梅

寒い時期から花を咲かせる植物です。生命力の強さからも、病を退ける花といういわれがあるそうで、正月飾りなどにも使用されています。花言葉は『上品』『高潔』『忍耐』『忠実』などです。長寿を願う縁起の良い花のひとつされているようです。梅の花が咲くと、そろそろ春がくるなあと感じます。



\*\*\*\*\*

令和6年2月5日発行

<発行責任者>幸田 久美

有限会社 幸田建設

969-1204 本宮市糠沢字八幡 1-1

電話 0243-44-3816

<後記>今年は、節分が3日では

なく、2日だそうです。地球

が太陽を1周する時間が365日

ぴったりではないことが理由だそ

うです。

(ほしの)

- ・連日35℃以上の気温が続くと、作物の光合成能力が低下し、栄養供給能力が停滞するなど深刻な成長障害を引き起こす。この高温障害が発生すると、収穫量の減少や品質の低下をもたらす。

<高温対策>

- ・遮光(資材を使って)の工夫や敷き藁の工夫、それと水やりの工夫などがある。

③牛乳・卵

<高温障害>

- ・乳牛は、採食した飼料を第一胃袋で発酵させて熱生産があるため、多少の寒冷には強いが、暑熱には非常に弱い。暑熱ストレスにより乳量が減少する。
- ・鶏は、汗腺がなく、体が羽毛で覆われているため、暑さによる影響を受けやすい。暑さストレスにより飼料摂取量が減り、産卵率や卵質が低下する。

<高温対策>

- ・乳牛は、牛舎の換気を良くしたり、舎内に入る直射日光を遮る。扇風機やダクトファンなどを使って牛舎の温度、湿度を下げる。
- ・鶏は、鶏舎の屋根、壁への断熱材の利用や直射日光を遮る工夫をする。また鶏舎の屋根に散水する工夫とか鶏の飲水温度の上昇を防ぐ。

(2) 漁業への影響

近年気候変動によって、海水温が上昇しており、海の温暖化が起きている。過去30年間の7月の平均値を比較すると、2022年の海水温が2~4℃高い海域が増えている。海水温が上昇すると、海中に溶け込む酸素の量が減るといわれる。海水温上昇という魚類の生息環境の変化に伴って、魚類の分布や漁獲量に変化が見られる。顕著な変化の例をいくつか見てみよう。

①サンマ

海水温12℃~18℃を好むサンマは、北太平洋に生息し、秋になると千島列島から日本列島の東岸付近を来遊するのが主流だった。しかし2010年以降にサンマが多く生息する常磐沖に暖水塊が発生し、黒潮の流れが変わってしまった。それによって日本列島近海の海水温が上昇し、その影響でサンマは冷たい水温を求め、より沖合の方を来遊するようになったといわれる。そんなことで、近年はサンマの不漁が続いているというわけである。食卓に上らないのは寂しいね。

②サケ

近年本県を始めサケの漁獲量が激減している。不漁になっている要因として沿岸の海水温が上昇し、冷たい海水を好むサケの生育に支障をきたしていると思われる。つまり、サケはあい沖合へ旅立つ前に沿岸に滞在し、成長する。しかし海水温が上昇したことで、サケの幼魚が滞在できる「適水温(8~12℃)」の機関が、1990年代半ばに比べて2週間短くなってしまった。これで生存率が下がってしまったと思われる。日本では漁獲量が減っているが、北方のロシアでは増えている。

③トラフグ

西日本で減っている高級魚トラフグの漁獲量が、宮城・福島・千葉の沖合で急増している。本県でも度々マスコミで報道されている。これも列島北部の東岸沖合が暖流の黒潮(20~30℃)であることから、温帯性(23℃前後)のトラフグがその適水温を求めて移動し、生息地を変えていると見られる。

相馬市ではフグ料理を食べさせてくれるということなので、機会があればと思う。

近年は4月下旬から夏日があり、夏は猛暑日が続き、これまでにない暑い夏となっている。これも地球温暖化の顕われといえる。今回は地球温暖化が農業や漁業にどのような影響を及ぼしているのか、現時点で明らかになっていることについて、情報を得ながら書いてみたいと思う。寒い時期に猛暑に関する話を取り上げるのをお許しいただきたい。

### 1. 夏（6～8月）の気温について

2024年夏（6～8月）の平均気温は平年と比較して1.76℃高かったという（気象庁）。これは、これまでの観測史上最高である（2023年に引き続き）。とにかく35℃以上の猛暑日が多くなっている。福岡県の太宰府市では、猛暑日が40日（7/19～8/27）連続する記録となった。熱中症のアラームが鳴りっぱなしの夏であった。このような異常に暑い夏となったのは、対流圏の上層まで伸びる背の高い（地上から高さ10～16キロまでの大気の層）暖かな高気圧や日本近海の高い海面水温が影響していると考えられる。

本県の2024年の夏（6～8月）はどうであったか。福島市の例で見てみよう。

- ・猛暑日（35℃以上）：12日～平年より3.1日多い
- ・真夏日（30℃以上）：64日～平年より25.3日多い
- ・夏日（25℃以上）：21日～平年より16日多い

これも平年に比べてかなり多くなっている。これでは、いろんな方面に影響を与えることは避けられない。我が家でもエアコンの使用時間が例年になく多くなっている。

### 2. 猛暑の影響

#### （1）農業への影響

- ①米：2023年も2024年も同程度の猛暑で、作況指数（米の出来具合を示す）も同程度でいずれも「101」で平年並みであった。一方米の品質（一等米）は、全国平均比率で2023年が59.6%（過去最低）、2024年は生産者の努力により84%（平年並み）に回復した。いずれにしても、高温対策は欠かせず、重要になっている。

#### <高温による障害>

- ・開花期に高温になると、受粉がうまくいかず、実りが悪くなり減収となる。
- ・品質への影響は、出穂後に登熟期間の高温による白未熟米の発生や、高温乾燥による胴割粒の増加、間接的にはカメムシなど害虫の増加による斑点米の増加により品質が低下する。

（注）カメムシについて：温暖化により北上している。冬が暖冬となることにより越冬できる個体が増加し、かつ繁殖時期が早まり、大量発生している。カメムシは夜行性で、米や果実の養分を吸い取って吸汁痕を遺す被害をもたらすのである。本県でも「カメムシ注意報」が出されている。

#### <高温対策>

- ・田植え時期を移動して遅植えとし、登熟期が高温のピーク時に当たらないようにする。
- ・発育の仕方が異なる品種を選んで、登熟期間が高温のピーク時に当たらないようにしたり、同じレベルの高温でも白未熟粒の発生が少ない高温耐性品種を選んで育てる。
- ・田植えが行われた後も、根の活力を保つために水管理や施肥の工夫により高温被害の軽減を図る。

#### ②露地野菜・果物

#### <高温障害>

## 2025新年 初登山

【今回登った山の概要】（百：日本百名山、◎：日本二百名山、○：日本三百名山、う百：うつくしま百名山、数字は標高）

- ①1月3日(土) 大名倉山(576m)
- ②1月5日(日) 大滝根山 (○ 1192m う百 花の百名山 阿武隈山系最高峰)
- ③1月11日(土) 日山 (天王山 阿武隈山系第2の高峰 ) (ひやま、てんのうざん う百 1054m)
- ④1月18日(土) 安達太良山(峰の辻まで)

今年はいよいよ日本三百名山踏破の年。前号（NO134）に元旦の計として、次のように掲げた。「元旦の計：日本300名山残り3座を踏破。そのための体力保持！」

有言実行で頑張りたい。まずは近郊の山で体力の保持に努めることにした。

### 【1 大名倉山】

1月3日(土) 10:30 過ぎ、天気が良いので、新年初山行として我が故郷の里山、大名倉山に登った。駐車場には2台の車があった。



登山口（上）。道には薄っすらと雪があった。凍っているところもあった。30分弱で山頂着。

この山は安達太良山の展望台だ。安達太良山に向かい、今年1年の登山の安全を祈願した（下）。



## 【2 大滝根山】

冬期間、阿武隈山系の一般道路は要注意だ。直線の陽当たりの良い所は乾燥していて雪がなくとも、日陰のカーブなどには雪があったり、凍結していることがある。これまで磐越道の田村 IC（スマート、旧大越町牧野）は利用したことが



がなかったなのでこの機会に利用してみた。1月5日、旧滝根町の仙台平キャンプ場をめざす。

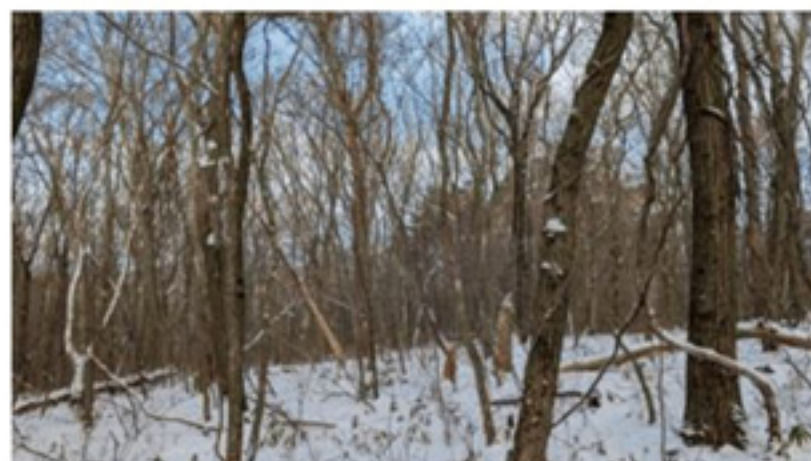
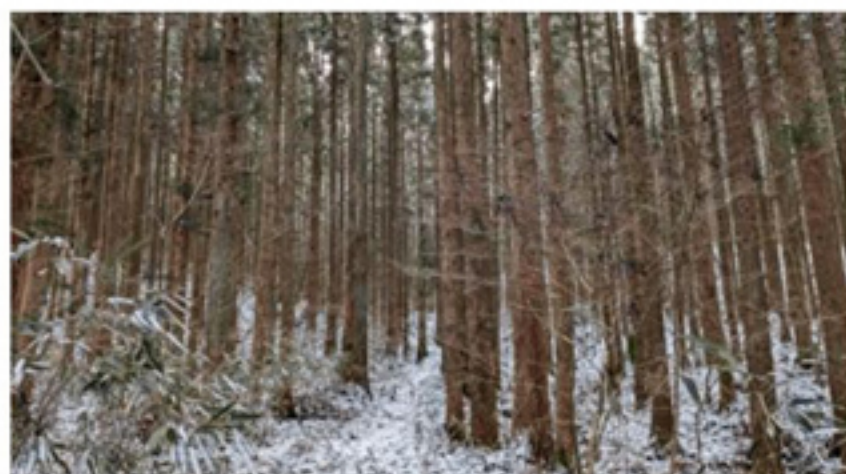
8:30 着。準備しめずは鬼生稲荷神社に参拝し、8:45 ツボ足のままで出発する（上・2 段目）。



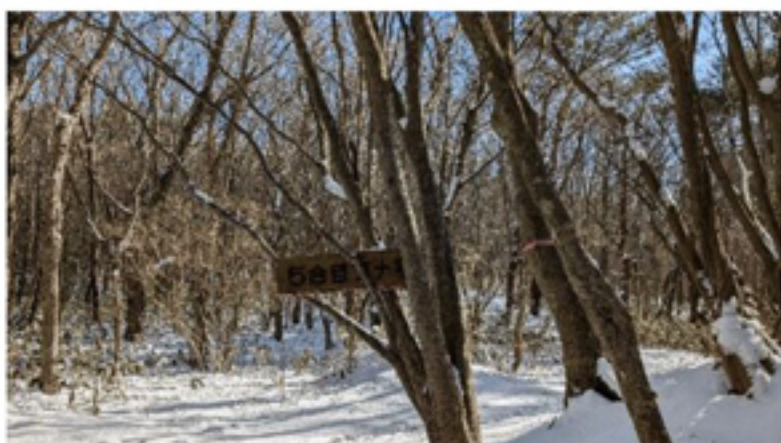
鬼穴には寄らずに雪に注意して下り、林道を横断して左に行った所に山に入る登山口の標識がある（3 段目）。雪は数センチ積もっている。

杉林（下左）。稜線に出るまで少しの間急登。稜線に出て緩やかになり広

葉樹の雑木林（下右）。



5合目のブナ平、雪が少し多くなってきた（上左）。山頂に近づくとしだいに傾斜が急になる（上右）。



慎重に通過する（2段目）。

雪の下が凍っている所があり滑って転びそうになる。

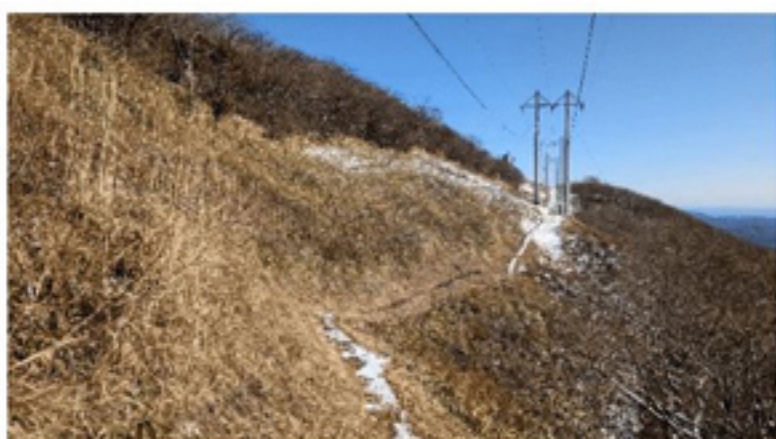


山頂部着 11:20。なだらかで、航空自衛隊基地のレーダードームの回転音が響いてくる（3段目）。有刺鉄線の柵に沿って行くと大嶽根山峯霊（みねたま）神社に至る（下左）。説明版には「延暦二十（801）年坂上田村麻呂の創建」となっている。

基地内にある山頂の代わりに、森林管理署の「大滝根山風景林」の標柱を撮る（下右）。

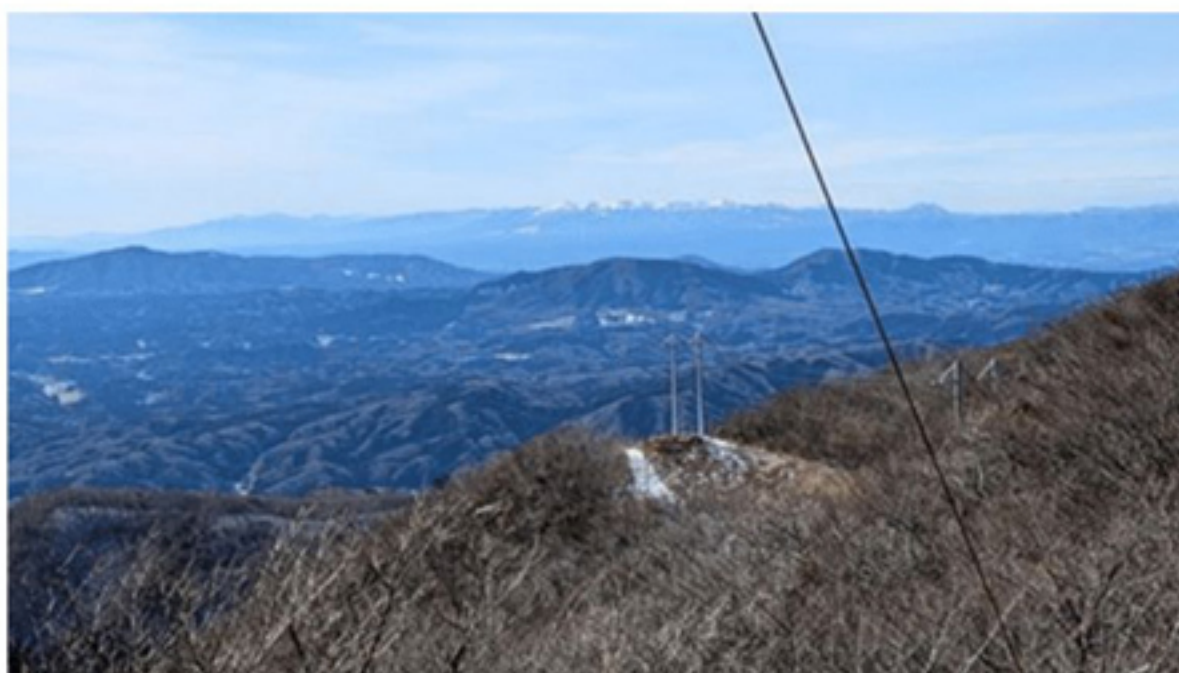


北側にさらに進んで行くと「梵天岩」があり登ってみる（上左）。北側少し離れた所にも航空自衛隊のアンテナ施設が建っていた（上右）。



基地の南側は北風が遮られ陽だまりになっている（2段目）。昼食にする。

南のすぐ近くに羽山（970m）、その先に重なって矢大臣山（965m）が見えている（3段目）。



下の写真は南西方向。写真左は蓬田岳（952m）、中央手前は小野町の日影山（879m）、麓に日本全薬工業臨床研究牧場の施設が確認できる。その右奥は一盃山（856m）か？ それらの奥の白い山並みは那須連峰、右手の黒い山は二岐山（○1544m）だろう。



13:00 下山開始、昨年5月の連休に東吾妻山山行で初めて使ったチェーンスパイクの装着・歩行訓練を行う。

11 本爪、爪が短いためか、積雪が少なく落ち葉などもついてスパイクの底が団子状態になる。時々ストックで叩いて雪を落とす。

14:40 仙台平の駐車場着。今回の山行では横浜ナンバーの軽乗用車の熟年女性とその息子さんの二人にしか会わなかった。女性の実家が福島で帰省のついでに山に登っているとのこと。

### 【3日山】

1月11日(土)、天気が良かったので阿武隈山系の日山に出かけた。田沢登山口から登り茂原口まで縦走し、車道を歩き田沢まで戻るという計画。かつて何度か歩いた道だ。日山パークゴルフ場を目指し11時前に登山口着。



「公共牧場機能強化事業管理棟」という長い名前の建物の所が駐車場で手前に別棟のトイレがある(上)。

車が5台ほどあり、雪の下は凍っていた。立派な案内看板が立っている(2段目左)。建物の左側の道から山に入っていく。山頂まで2.2kmとなっている。



11:00、何も付けずツボ足で歩き始める

(2段目右)。

牧場の柵の脇を通る(下左)。休憩所がある(下右)。



「これより山頂まで0.9 kmの標識」(上左)。枝に着いた雪景色が美しい(上右)。



12:50 山頂広場着。案内図がある(2段目左)。田沢、茂原、葛尾の3地区の神社がそれぞれ立派な石造の鳥居を有し、それぞれの地区の方角に建っている。大きく、立派な展望櫓があり昨年建て替えられたようだ(2段目右)。



南方向、大滝根山(1192m)を望む。手前に移ヶ岳(995m)や鎌倉岳(967m)が見えているはずだが上から見ると同定が難しい(下)。



西の方角、麓山（897m）の山頂部が木の枝に隠れている（上）。



テーブルの雪を払いおにぎりを食べる。

13:30 下山開始、扉が開いていた茂原旭神社（2段目左）に参拝し茂原方面に下山、縦走する。

移登山口（田村市船引町）への分岐辺りからの移ヶ岳（2段目右）。



14:53 茂原登山口（旭神社鳥居）着。

「山頂まで 3.9 km～写真以外は取らないで 足跡以外は残さないで～」と書かれている。

ここから 5 cm位の積雪の車道を約 1 km歩いて、車を置いた田沢登山口に戻る。15:20 駐車場着。休憩を含め約 4

時間半の日山周回登山を終える。帰途、同じ茂原地区にある名目津温泉で汗を流し帰宅する。

#### 【4 安達太良山】

1月18日(土)

奥岳スキー場駐車場に8時前着。2本のポールの手前に車を置く。ポールから中は駐車料金千円がかかる。山の方は曇っていて雪が降っているかも知れない(上左)。初めからスノーシューを履き、8:20 出発。馬車道はスキーのトレースがあるが左の登山道を山に入っていく(上右)。



陽が差すこともある(2段目左)。今年は雪が多い。

10:35、少し休み勢至平分岐を峰ノ辻に向けて左方向の踏み跡をたどる(2段目右)。標高が上がるにつれ風強くホワイトアウト状態。11:15 峰ノ辻着。(下左)。人の姿もない。山頂は断念し、自分の踏み跡が最も新しいと判断し往路を



戻る。風によってできた景観が素敵だ(下右)。14:35 車着、約6時間の安達太良山行を無事終わる。



2025年2月 NO135 アンチ・エイジング 山旅遊人